

南城市歌 作詞 知念 仁照
作曲 普久原 恒勇

太平洋の 彼方から
昇る朝日を 仰ぎつつ
ニライカナイの 神の地に
島建て神が 降り立ちぬ
世界に誇る 美ら島の
ああ秀麗の 南城市

歴史文化を 偲ぶには
四郷の面影 今ここに
城と湧水の 豊かさも
黄金波打つ 美ら海の
心を結ぶ 人の脈
ああ繁栄の 南城市

登る坂道 希望持ち
共に築かん 理想の郷
明日の栄光 自治の礎
久遠の平和 光る街
輝く未来 美ら宿道を
ああ躍進の 南城市

南城音頭 作詞 東恩納 盛雄
作曲 普久原 恒勇

東四間切 朝日がのぼり
広がる海に 夢が咲く
みどり 太陽 花咲くまちは
心と心 つなぐまち
ここは南城 海の郷

*ユイヤナー ハイヤナー
しんかうち揃てい
歌い踊らな 南城音頭

城ロードに 歴史をたずね
住みよいまちに 笑顔咲く
昔なつかし 石畳道
今と昔を つなぐ道
ここは南城 風の郷

*囃子

湧き出る水に 希望もあふれ
恵みの大地 情咲く
心ゆたかに 息吹もつよく
夢を植えよう このまちに
ここは南城 水の郷

*囃子

のびゆく街に 緑も映えて
平和なまちに 愛も咲く
大きな夢は 未来へつづく
幸せ招く 神話の地
ここは南城 神の郷

*囃子



南城市

20年のあゆみ
2006 - 2025



はじまりを想う

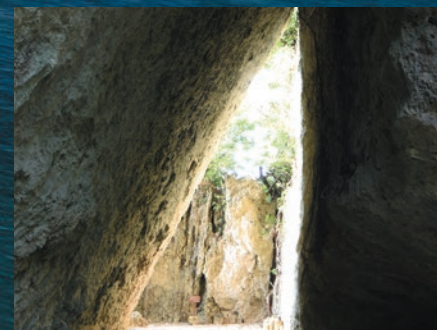
この島のはじまりは、どのようなものだったのでしょうか。

琉球創世の神話、グスクの時代、三山を統一した王の記憶。
戦後の混乱から立ち上がり、日々の暮らしを築いてきた人々の歩み。
南城市の風景には、遠い時代から今日まで、
数えきれない人々の営みが重なっています。

長い歴史のものさしで見れば、20年という時間は、
ほんのわずかな一瞬かもしれません。
それでも、この20年を振り返ることは、いま私たちが暮らすまちが、
どのように形づくられてきたのかを見つめることです。
道が整い、学校が建ち、地域の行事が受け継がれ、
新しい出会いが生まれてきた。その一つひとつの背景には、
まちを思い、支え、動かしてきた人々がいます。

歴史を思い返すことは、過去をただ懐かしむことではありません。
いまの暮らしにつながる糸をたどり、
そこに関わった人々の思いを想像すること。
そして、その糸を未来へと紡いでいくことです。

南城市が誕生して20年。
この冊子が、私たちのまちの歩みを見つめ直し、
次の時代へ思いをつなぐ一冊となりますように。



目次

- 04 合併の経緯
- 06 南城市の誕生
- 08 年表
- 14 こころ、つなぐ。
- 16 分野別あゆみ
- 24 未来へ - 先導的都市拠点
- 26 未来へ - 未来対談
- 28 資料編



未来へつなぐ、南城市の20年

南城市誕生20周年を迎えるにあたり、市民の皆さまをはじめ、これまで本市の発展にご尽力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

平成18年1月1日、佐敷町・知念村・玉城村・大里村の1町3村が合併し、南城市は誕生しました。それぞれの地域が育んできた自然、歴史、文化、人々の営みを受け継ぎながら南城市は一つのまちとして歩みを重ねてまいりました。

この20年の間、本市では新庁舎の整備、道路や学校の整備、子育て支援、福祉、観光、産業、防災、公共交通など、さまざまな分野でまちづくりを進めてきました。

また、地域活動や伝統行事、文化芸能、スポーツ、教育、福祉の現場など、市民の皆さま一人ひとりの力が南城市の暮らしと魅力を支えてきました。

一方で、人口構造の変化、地域コミュニティの維持、自然災害への備え、新型コロナウイルス感染症への対応など、多くの課題にも向き合ってきました。そのたびに、市民、地域、事業者、行政が力を合わせ前へ進んできたことは南城市にとって大きな財産です。

20年という節目は、これまでの歩みを振り返るとともに、未来へ向けて新たな一步を踏み出す機会でもあります。先人たちが守り育ててきた歴史、文化、自然を大切にしながら、子どもたちが希望を持ち、誰もが安心して暮らし続けられる南城市を次の世代へつないでまいります。

この『南城市 20年のあゆみ』では、20年を祝うとともに今に感謝できる特別な日として、私たちの暮らしが多くの人々の努力と支えによって築かれてきたことを見つめ直し、次の時代へ思いをつなぐきっかけとなれば幸いです。

これからも市民の皆さまとともに、未来への責任を胸に、「海と緑と光あふれる南城市」のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

結びに、南城市の発展を支えてこられたすべての皆さまに深く敬意と感謝を申し上げますとともに、市民の皆さまのご健勝、ご多幸を祈念し、あいさついたします。

令和8年8月
南城市長 大城憲幸

佐敷町 夢・花・風と シュガーホール



三山を統一した英雄・尚巴志ゆかりの地として知られています。馬天港は、古くから東海岸の良港として人や物が行き交い、地域の発展を支えてきました。明治41年の島嶼町村制により佐敷村となりました。文化の拠点であるシュガーホール、町民参加による花と緑のまちづくりなどを進めました。

尚巴志ハーフマラソン



東御廻り国際ジョイアスロン

知念村 海と緑と朝日の里



琉球開闢の神アマミキヨが降り立ったと伝えられる久高島や、王国時代の国家的祭祀場であった斎場御嶽を有し、沖縄古来の祈りに深く関わってきた地域です。東海岸に昇る朝日、美しい海、豊かな緑にも恵まれ、歴史と自然が調和する風景が広がっています。明治41年、島嶼町村制により知念村となり、自然と歴史文化を生かした村づくりを進めました。



↑ 2005年3月23日、大里村社会福祉センター(現：大里こども園)で合併協定調印式が行われました。写真左より、屋宜由章大里村長、大城晃玉城村長、嘉数昇明副知事、古謝景春知念村長、津波元徳佐敷町長。

旧町村の合併までの歴史

三山時代 佐敷の尚巴志が台頭し、大里の島添大里城を攻略したことは、琉球統一への大きな足がかりとなった。現在の南城市域は、琉球王国成立へ向かう歴史の重要な舞台だった。

王国時代 現在の南城市域は佐敷間切、知念間切、玉城間切、大里間切の4つの行政区画からなり、首里から見て東方に位置することから「東四間切(アガリユマジリ)」と呼ばれた。

1908年 島嶼町村制により、佐敷村・知念村・玉城村・大里村が成立。近代的な村制のもとで、それぞれの歩み始める。

1949年 大里村から与那原町が分離。

1980年 佐敷村が町制を施行し、佐敷町となる。

2003年 佐敷町・知念村・玉城村・与那原町による合併協議会、南風原町・東風平町・大里村・具志頭村による合併協議会がそれぞれ設置される。

2005年 佐敷町・知念村・玉城村・大里村による合併協議が進み、合併協定調印式が行われる。

2006年 佐敷町・知念村・玉城村・大里村が合併し、南城市が誕生。

新市名称は「南城市」に決定

佐敷町・知念村・玉城村・大里村の合併に向けて、新しい市の名称は公募により検討されました。新市名称候補選定小委員会では、応募された名称の中から候補を絞り込み、「東方市」「島添市」「東城市」「南城市」の4案を選出しました。

2005年3月22日の第2回合併協議会において、委員による無記名投票の結果、候補は「南城市」と「東方市」に絞られ、2回目の投票で新市の名称は「南城市」に決定しました。

「南城市」が選ばれた理由としては、沖縄本島の南に位置し、古くから南部地域には多くの文化が存在してきたこと、また、豊かな自然や植物、住民の暮らしに恵まれ、地域に数多くのグスクがあることなどが挙げられました。



玉城村 グスクと水の里・ たまぐすく



琉球開闢の神アマミキヨが沖縄本島に初めて上陸した地と伝えられる、歴史と自然の豊かな地域です。玉城城跡や糸数城跡などのグスク、垣花樋川に代表される湧水、藪薩の浦原をはじめとする海辺の景勝地が、今も暮らしの中に息づいています。明治41年に玉城村となり、文化遺産と自然環境を生かした村づくりを進めました。

公民館祭り



うぶざとヌムーチャーさい

大里村 緑と心豊かな かりゆしの里・大里



琉球王国成立以前の三山時代には、南山王の居城ともされた島添大里城跡を中心に地域を治めていました。王国時代には、大里の名のとおり、広大な田園空間がひろがる地域でした。明治41年の島嶼町村制により大里村となりました。昭和24年には与那原町が分離。豊かな緑と地域のつながりを生かしたまちづくりを進めました。

南城市、誕生。

2006年(平成18年)1月1日、
佐敷町、知念村、玉城村、大里村がひとつとなり、
新市「南城市」が誕生しました。
受け継がれてきた歴史、文化、人の心を大切にしながら、
新たなあゆみが始まりました。

人口の
変化



※住民基本台帳より。各年1月1日時点。



将来像

海と緑と光あふれる南城市

シンボル

市民によるアンケート調査結果を尊重し、普及性かつ愛着性等を重点に考慮し、選定いたしました。
(2007年3月1日制定)

南城市の花



ハイビスカス

南城市の木



リュウキュウコクタン

南城市の花木



クチナシ

南城市の魚



ミーバイ
(ハタ)

南城市の貝



サザエ
(チョウセンサザエ)

市章



南城市の「N」の文字を図案化したもので、緑色は豊かな自然を、青色は豊饒の海を、赤色は太陽をイメージし、合併により未来に向かって躍進する元気な市民を表現しています。
(2006年11月1日制定)

市民憲章

(2007年3月1日制定)

- 一、私たちは、海と緑の豊かな自然を守り、美しい環境のまちをつくります。
- 一、私たちは、郷土の歴史と伝統に誇りをもち、文化のまちをつくります。
- 一、私たちは、お年寄りを敬い、子どもの夢を育て、だれもが生きがいをもてるまちをつくります。
- 一、私たちは、スポーツに親しみ、明るい健康なまちをつくります。
- 一、私たちは、互いに助け合い、温もりのあるまちをつくります。

始動期

まちをひとつに。

旧町村から受け継いだ取り組みをもとに、各地域に点在していた機能をひとつに整えながら、市としての新たな仕組みをかたちにしていっていった時期です。なにより、南城市としての一体感の構築を目指しました。その歩みは、現在の南城市へとつながっています。



1 南城市誕生



2 がんじゅう駅・南城 完成



3 屋宜原線 完成



4 大里南小学校 校舎移転・改築



5 6代目 奥武橋完成



6 第1回南城市民ミュージカル「太陽の門」上演

2006（平成18年）

- 1月 南城市誕生 **1**
- 2月 初代市長 古謝景春氏 就任
- 4月 南城市地域包括支援センター設置
南城市女性連合会が発足
- 6月 国際ジョイアスロンin南城市開催
- 9月 第1回 市議会議員選挙(定数22名)
南城市農業委員会選挙
- 10月 4庁舎間巡回バスの試行運転開始
市章デザイン決定
玉城小学校、知念小学校 校舎改築
南城市誕生記念写真展「笑顔が戻った日」開催
- 11月 知念屋外運動場 完成

2007（平成19年）

- 3月 市民憲章・市花・市木・市花木等を決定

- 6月 体験滞在交流拠点施設(がんじゅう駅・南城) 完成 **2**
- 7月 斎場御嶽(緑の館)入館料徴収開始
庁舎統合(玉城・大里庁舎へ)

2008（平成20年）

- 1月 南城市歌、南城音頭を決定
- 2月 南城市シルバー人材センター設立
- 3月 第一次南城市総合計画策定
第1回南城市植樹祭
集落地域整備事業(湧稲国・南風原地区)
- 4月 大里地区を南城市水道事業に統合
地域情報ネットワーク「ハイビスカスネット」開通
- 5月 南城市立図書館 大里分館が開館
- 11月 県戦略品目拠点産地認定(オクラ)
第1回南城市まつり開催

2009（平成21年）

- 1月 宮崎県高千穂町と姉妹都市盟約再締結
- 2月 久高小中学校 改築
真境名線完成
- 3月 市民が宝・まちづくりシンポジウム開催
- 4月 市立知念保育所の民営化による「知念あさひ保育園」開園
佐敷中学校 体育館改築
景観行政団体となる
- 5月 屋宜原線 完成 **3**
村づくり交付金事業(農村集落基盤再編・整備事業、佐敷・知念地区)
- 7月 上がり太陽プラン事業実施
- 8月 新高速船「ニューくだかⅢ」就航
- 11月 第1回南城市社会福祉大会
- 12月 雇用創出サポートセンター開設

2010（平成22年）

- 1月 第2代市長 古謝景春氏 就任
- 3月 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業(久原地区)
「南城市史総合版(通史)」刊行
- 4月 市立佐敷第1・第2保育所の民営化による「さしき保育園」開園
南城市観光協会設立
地域活動支援センター 落成式
- 5月 村づくり交付金事業(農村集落基盤再編・整備事業、玉城西部地区)
- 6月 なんじょう市民大学開校
- 7月 沖縄タイムス賞(自治賞)受賞
県戦略品目拠点産地認定(マンゴー)
- 8月 南城都市計画がスタート
大里南小学校 校舎移転・改築 **4**
- 9月 南城市議会議員選挙(定数20名)
知念18号線完成
農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業(山里・稲嶺地区)

- 10月 百名・船越・玉城3園統合、玉城幼稚園開園
- 12月 6代目 奥武橋完成 **5**
船越小学校 校舎改築
斎場御嶽世界遺産登録10周年

2011（平成23年）

- 1月 南城市陸上競技場 改修・改築
久高島由来記「黄金の瓜ざね」上演
- 2月 市民サービスコールセンター設置
第1回南城市民ミュージカル「太陽の門」上演 **6**
- 3月 奥武漁港物揚場整備工事 完成
小谷真謝線完成
- 4月 南部東道路整備事業(県事業)着手
ファミリーサポートセンター 開設
市立船越保育所の民営化による「船越保育園」開園(現:船越認定こども園)
県戦略品目拠点産地認定(さやいんげん)

- 7月 南城市誕生5周年記念式典
知念157号線完成
- 9月 なんじい&ハートロゴ 誕生
- 10月 第63回保健文化賞受賞
- 11月 津波古公民館 落成
- 12月 市民平和の日(8月10日)制定

2012（平成24年）

- 1月 結婚記念証の発行
島添大里城跡 国指定史跡
- 3月 アマミキヨ浪漫の会発足
南城市議会基本条例制定
人口41,000人セレモニー
- 4月 なんじょう地域デザインセンター設立
佐敷・知念幼稚園2年保育実施
市立玉城保育所の民営化による「以和貴保育園」開園
久高教員住宅 改築

発展期

まちがのびる。

都市計画の歩みが形となり、地域拠点や観光・産業の取り組みが広がっていった時期です。人口も増加し、市内外から人が訪れるまちとしての魅力も高まりました。教育、福祉、文化の分野でも新たな拠点や制度が生まれ、南城市は次の成長へと歩みを進めました。



7 第2回南城市まつりでお新下り行列再現



9 奥武島いまいゆ市場開店



10 『ハートのまち宣言』発表



8 ハーブフェスティバル開催



11 斎場御嶽ガイダンス施設オープン



12 おでけなんじい本格運行



13 グスクロード公園リニューアル



14 南城市役所新庁舎で業務開始

- 6月 斎場御嶽休息日実施
- 大里城趾公園パークゴルフ場オープン
- 9月 南城市農業委員会選挙
- 10月 第2回南城市まつりでお新下り行列再現 **7**
- 11月 親子通園事業所(通称：はっぴー)開所
- イオンタウン南城大里オープン

2013 (平成25年)

- 1月 市民課窓口業務の一部民間委託
- 2月 馬天兼久島之前線完成
- FMなんじょう開局(～2018年2月末)
- 4月 字つきしろ新設
- 5月 津波古35号線完成
- 6月 海野(板馬)多目的広場「ちなくらじ広場」落成
- 9月 市全域光ブロードバンドサービス提供開始
- 10月 知念児童館 開館

- 佐敷城跡 国指定史跡
- 11月 南城市地域物産館 落成
- 第21回全国ハーブサミット、ハーブフェスティバル開催 **8**
- 知念図書館等複合施設 完成
- 12月 「おでけなんじい」実証実験開始

2014 (平成26年)

- 1月 大城地区農業集落排水 供用開始
- 第3代市長 古謝景春氏 就任
- 2月 知念幼稚園 園舎改築
- 4月 病児・病後児保育「大里キッズ」開始
- 6月 人口42,000人セレモニー
- 7月 優良繁殖牛導入事業
- 奥武島漁具保管修理施設 改築
- 8月 沖縄南城セレクション認定制度創設
- 9月 南城市議会議員選挙
- 11月 奥武島いまいゆ市場 開店 **9**

2015 (平成27年)

- 2月 ECOスピリットライド&ウォークin南城市開催(～2019年2月)
- 3月 長堂～上原線道路改良 完成
- 「安座真ムラヤー」落成式典
- 4月 南城市学校給食センター稼働開始
- 南城市就職・生活支援パーソナルサポートセンター開設
- 市立わかば保育所の民営化による「松の実保育園」開園
- 8月 大里字平良新設
- 9月 公共下水道 佐敷地区の拡大
- 10月 久高のフオー御嶽 国指定名勝
- 久高島の海岸植物群落 国指定天然記念物
- 佐敷小学校 プール改築
- 11月 優良乳用牛リース支援事業
- 村づくり交付金事業(大城南地区)完成
- 佐敷幼稚園 園舎改築

- 馬天小学校 体育館改築
- 12月 「ハートのまち宣言」発表 **10**

2016 (平成28年)

- 2月 肉用牛生産振興特別対策事業完成
- 「前川ムラヤー」落成式典
- 大里城趾公園に新遊具を整備
- 馬天小学校 プール改築
- 4月 農業委員会法改正による選挙から選任へ変更
- 斎場御嶽ガイダンス施設オープン **11**
- デマンド交通「おでけなんじい」本格運行 **12**
- 人口43,000人セレモニー
- 馬天小学校内学童クラブ運営開始
- 6月 百名小学校内学童クラブ運営開始
- 子どもの居場所「ほっとハウスひまわり」開所(～2023年3月末)
- 7月 大里城趾公園整備事業完成

2017 (平成29年)

- 1月 久高島ロマンスロード東屋及び駐輪場完成
- 2月 漁村地域整備交付金事業(久高漁港船場改良工事)完成
- 「男女共同参画都市宣言」発表
- 第2回南城市民ミュージカル「太陽の門ー新ムラヤー版ー」上演
- 証明書コンビニ交付サービス開始
- 3月 グスクロード公園リニューアル **13**
- 農業基盤整備促進事業(知念・佐敷・玉城・大里)完成
- 「南城市のグスク」刊行
- 4月 玉城小学校内学童クラブ運営開始
- 船越小学校内学童クラブ運営開始
- 5月 「知名ムラヤー」落成式典

- 7月 子どもの居場所「ほっとハウスがじゅまる」開所(～2023年3月末)
- 島尻消防佐敷出張所が開所
- 玉城中学校 武道場・プール改築
- 10月 シュガーホール野外ステージリニューアル
- 市立みどり保育所の民営化による「輝咲保育園」開園
- 11月 尚巴志ハーフマラソン 南城市民初の総合優勝・大会新記録

2018 (平成30年)

- 1月 南城市議会議員補欠選挙
- 2月 第4代市長 瑞慶覧長敏氏 就任
- 3月 ハートFMなんじょう開局(～2023年3月)
- 第2次南城市総合計画を策定
- 「南城市の御嶽」刊行
- 4月 佐敷小学校・大里南小学校敷地内の学童施設が運営開始
- 5月 南城市役所新庁舎で業務開始 **14**

充実期

まちをつなぐ。

新庁舎を中心に行政機能が集約され、人と地域をつなぐ基盤が整っていった時期です。一方で、新型コロナウイルス感染症や軽石被害など、これまでにない課題にも向き合いました。デジタル化や防災の取り組みを進め、成熟したまちとしての歩みを重ねています。



15 市内線バス「Nバス」運行開始



16 南城市公共駐車場 運用開始



17 南部東道路の一部区間(大城～新里)が暫定供用開始



18 第5回南城市まつり 8年ぶりにリアル開催



19 国道331号バイパス早期整備を求める総決起大会



20 新開球場リニューアル

- 7月 子どもの居場所「BIG MAMA HOUSE」開設(～2022年3月末)
- 8月 「フェリーくだかⅢ」就航
- 9月 南城市議会議員選挙
- 10月 小学校入学前の子ども医療費の窓口無料(現物給付)開始
最終処分場「美らグリーン南城」供用開始
斎場御嶽 国指定名勝追加指定

2019 (平成31年/令和元年)

- 2月 ソニービジネスオペレーションズ株式会社が旧大里庁舎に入居
- 3月 人口44,000人セレモニー
シュガーホール指定管理移行
- 4月 大里北小学校 校舎移転・改築
大里北小学校・知念小学校、校内学童クラブ運営開始
- 5月 県営水利施設整備事業(雄樋川1期地区)
- 7月 オキナワインターナショナルスクー

- ルが旧玉城庁舎に入居
- 10月 市内線バス「Nバス」運行開始 **15**
QABデータ放送開始
玉城グスク 国指定名勝追加指定
- 12月 農山漁村活性化対策整備事業(大城地区)

2020 (令和2年)

- 3月 『南城市の沖縄戦 資料編』刊行
大里地区(一部)が公共下水道事業に編入
- 4月 政府が初の緊急事態宣言発出、久高島への入島自粛を呼びかけ
子どもの居場所「みんなのいえ」開設(～2022年3月末)
- 6月 南城市独自の新型コロナウイルス感染症対策17事業を実施
- 8月 「母子健康包括支援センター」開設
- 9月 村づくり交付金事業(農村集落基盤再編・整備事業、玉城東部地区)
- 12月 斎場御嶽世界遺産登録20周年

2021 (令和3年)

- 2月 市内小中学校へ一人一台端末等を整備
- 3月 南城市公共駐車場(南城市観光振興拠点施設)運用開始 **16**
南部東道路の一部区間(大城～新里)が暫定供用開始 **17**
『南城市の沖縄戦 証言編 -大里-』刊行
南城市電子図書館スタート
- 5月 市公式LINEアカウントの運用開始
南城市こどものまち宣言を発表
- 6月 人口45,000人セレモニー
- 7月 南城市舞台のアニメ「白い砂のアクアトープ」放送
- 8月 大里中学校 校舎改修・改築
- 10月 沖縄県内で軽石被害
- 11月 第4回南城市まつりオンライン開催
- 12月 村づくり交付金事業(農村集落基盤再編・整備事業、南城市西部地区)

2022 (令和4年)

- 1月 「白い砂のアクアトープ」がアニメ聖地88に認定
第5代市長 古謝景春氏 就任
- 2月 「大里のちてーばなし」「南城市の民俗」刊行
- 4月 玉城幼稚園・知念幼稚園が認定こども園へ移行
中学卒業まで子ども医療費の窓口無料化(現物給付)開始
地域包括支援センター地域型を2か所新設
- 8月 なんじょうデジタルアーカイブがデジタルアーカイブジャパン・アワードを受賞
- 9月 南城市議会議員選挙
- 11月 奥武区文化振興施設落成

2023 (令和5年)

- 3月 久高幼稚園 移転・改築

- 県戦略品目拠点産地認定(モズク)
- 4月 大里北・大里南幼稚園を統合し、公立大里こども園が開園
市立佐敷幼稚園が公私連携認定こども園「佐敷こども園」へ移行
- 5月 人口46,000人セレモニー
子どもの居場所「あしびなー知念」「大里コミュニティ広場」開設
- 6月 Nバス運賃支援事業を開始。65歳以上・障がい者の運賃を無料化
河川・道路・高潮監視システムを導入

2024 (令和6年)

- 2月 三重県玉城町と姉妹都市盟約を再締結
- 4月 子ども医療費の入院費助成対象を18歳年度末まで拡充
子どもの居場所「佐敷コミュニティ広場」「玉城コミュニティ広場」開設
「こども家庭センター」設置

- 8月 コストコ沖縄南城倉庫店がオープン
- 11月 第5回南城市まつり8年ぶりリアル開催 **18**
馬天小学校 校舎改築

2025 (令和7年)

- 2月 知念半島地域の命と暮らしを守る国道331号バイパスの早期整備を求める住民総決起大会を開催 **19**
- 4月 糸城城跡展望台の供用開始
リニューアルした新開球場でセレモニーと記念試合を開催 **20**
- 5月 「なんじょう和牛」記者発表
- 6月 人口47,000人セレモニー
いまいゆ市場飲食場オープン
- 7月 新高速船「ニライカナイ」就航
- 11月 南城市議会議員選挙
第30回全国ハーブサミット開催
第6回南城市まつりを開催
- 12月 第6代市長 大城憲幸氏 就任

ハートのまちを広げた なんじい

4つの町村が合併して誕生した南城市。その地形は、上空から見ると見事なハートの形をしています。この特徴をまちの個性として育て、市民の一体感づくりに一役かったのが、南城市の公式キャラクター「なんじい」です。

ハートのおひげが印象的な、親しみやすいおじいちゃん。2011年に市の公式キャラクターとしてデビューしたなんじいは、市内のイベントや広報活動などに登場し、瞬く間に市民の人気者となりました。

子どもから大人まで親しまれるその姿は、南城市を象徴するアイデンティティのひとつとなっています。

なんじい



ハートロゴ



那覇市国際通りをなんじいがジャック！（2014年）



コンビニのCM出演に挑戦（2013年）



知念小であいさつ運動（2014年）



ゆるキャラグランプリ出馬（2015年）



ハートの日 SDGs マルシェ（2025年）



結婚記念証

ナンバープレート



「ハートのまち」としての歩み

南城市では、なんじいの活躍とあわせて、独自の結婚記念証やオリジナルナンバープレートを制作し、暮らしの中で「ハートのまち」を感じられる工夫を展開。さらに、8月10日を「南城市市民平和の日（ハートの日）」に制定し、2015年には「ハートのまち南城市」を宣言しました。

ハートは、まちの形だけを表すものではありません。助け合い、思いやり、平和を大切に作る心。南城市は、そんなハートフルなまちづくりを目指しています。

こころ、つなぐ。

地域のこころを受け継ぐ ムラヤー

南城市では、第2次総合計画の指針として「ムラヤーを主体とした、自然と文化を継承する福寿のまちづくり」を掲げています。

ムラヤーとは、琉球王国時代に地域を管理するために置かれた行政機関に由来する言葉で、現在では公民館を中心とした地域づくりの拠点として位置づけられています。

市全体として人口が増加する一方で、新しい住民が増える地域では、住民同士のつながりづくりが課題となっています。また、人口減少や高齢化が進む地域では、伝統行事や地域文化をどのように受け継いでいくかが大切なテーマになっています。

こうした中、南城市では地域の拠点となるムラヤーの整備を進めるとともに、「なんじょう市民活動支援センター」を通して地域コミュニティの活性化を支援しています。ムラヤー学習会や地域コミュニティ計画の策定支援、ムラヤー活性化スタートアップ支援などを通して、世代を超えて人が集まる取り組みが広がっています。

ムラヤーは、地域の人が集い、語り、支え合う場所。自然や文化を受け継ぎながら、これからの地域のつながりを育てる大切な拠点です。



“ムラヤーをもっと身近に”をテーマに、公民館などの地域拠点でベビーマッサージや親子を対象にしたイベントなどを展開中。



自治会長や区長を対象にした「ムラヤー学習会」

ムラヤーを支える施設整備



津波古公民館（2011年完成）



安座真ムラヤー（2015年完成）



前川ムラヤー（2016年完成）



知名ムラヤー（2017年完成）

4つの町村がひとつになって誕生した南城市。

ハートの形をしたまちは、「なんじい」や「ハートのまち」の取り組みを通して、市民の一体感を育んできました。

そして地域では、ムラヤーを拠点に、人と人、世代と世代をつなぐ活動が広がっています。

市全体をつなぐシンボルと、地域に根ざしたつながり。南城市は、心の通うまちづくりを進めています。



イオンタウン南城大里とその周辺

まちを、ひとつに。

バラバラの仕組みを整理した「南城都市計画」

大里・佐敷地域の多くは、那覇広域都市計画の市街化調整区域に位置づけられ、発展の可能性を持ちながらも、住宅や商業施設の立地に一定の制約がありました。一方で、玉城・知念地域では自然環境の保全とのバランスが課題となっていました。

南城市は2010年に独自の都市計画(南城都市計画)へ移行し、市域全体を見据えた一体的なまちづくりを推進。開発と保全の両立を図っています。

左の写真は大里地域。旧大里南小学校跡地には、2013年にイオンタウン南城大里が開業し、周辺では住宅整備も進展。人口増加の一因となりました。



南城都市計画では、県内最大規模の「風致地区」を指定し、緑地などを守っています。また、特定用途制限地域を設定し、一定規模の遊技場などの建築を制限し、南城市らしい景観を維持しています。

都市基盤の主な取り組み

1 地域をつなぐ道路整備



新開田原線

まちが変われば、まちをつなぐ道も変わります。市民生活や地域間の移動を支える市道の整備を進めてきました。また、国道331号の改良のほか、県事業である「南部東道路」も一部開通しました。

2 市民の足を支える公共交通



Nバス

コミュニティバス「Nバス」(2019年開始)やデマンド交通「おでけなんじい」(2016年開始)を運行しています。市民の生活の足を確保し、車を持たない人でも住み続けられるまちへ出発進行！

3 人が集い、憩う公園整備



グスクロード公園

大里城趾公園パークゴルフ場が2012年にオープン。2017年には、グスクロード公園がなんじいをあしらったデザインの遊具に全面リニューアルし、子どもたちに人気の公園になっています。

4 快適な環境を支えるごみ処理



美らグリーン南城

ごみ処理は南部6市町による広域連携で運営されています。最終処分場の整備には調整を要しましたが、輪番制のもと南城市に「美らグリーン南城」が整備され、地域で支える仕組みが築かれました。

5 安全・安心を守る防災



島尻消防 佐敷出張所

2009年、佐敷地域の消防体制が島尻消防組合へ移管され、2017年には出張所が高台へ移転。防災体制の強化が図られました。あわせて、防災放送のスマートフォン受信など情報伝達の改善も進められています。

6 行政機能を一元化庁舎統合



南城市役所 新庁舎

合併当初は4庁舎体制で運営されていましたが、2007年に大里・玉城へ集約。2018年には佐敷新里に新庁舎が完成し、行政機能が一体化されました。災害時の防災拠点としての役割も強化されています。

南城市の変化 ※住民基本台帳より



2006年1月

40,759

人

2026年1月

47,325

人



2006年1月

13,134

世帯

2026年1月

20,648

世帯

その他の「都市基盤」に関する取り組み

- 大城地区農業集落排水施設等 下水道整備
- 久高地区津波避難施設
- 市全域のインターネット光回線開通
- 南部東道路整備事業(県事業)
- 南城市公共駐車場(南城市観光振興拠点施設)
- 河川・道路・高潮監視システム

未来のために。



子どもたちの学びを支える、学校施設の整備

合併以前の旧町村単位では財政規模も異なり、学校や教育施設の整備は個別対応が中心で、更新の優先順位づけが難しい状況でした。

合併によって予算を市全体で再配分できるようになり、児童数の変化や施設の老朽化状況を踏まえた計画的な整備が進みました。この20年の間に小学校7校、中学校1校、幼稚園4園(現こども園)、学校給食センターなどの施設が改築され、子どもたちの学びと成長を支える環境が着実に整えられてきました。



各地域に分かれていた給食センターを、平成27年に新たな学校給食センターへ集約。最新設備のもと、市全体の子どもたちへ安全で安定した給食を届ける体制が整いました。



馬天小学校の新校舎

教育・子育ての主な取り組み

1 居場所を広げる 待機児童対策



船越小学校の放課後児童クラブ

民間保育園等との連携により、保育の受け皿確保を進めました。市立幼稚園は認定こども園へ移行し、学校施設内には放課後児童クラブを増設。子どもたちの居場所づくりに取り組みました。

2 切れ目なく支える 子育て支援



子育て支援センター「にこにこ広場」

こども家庭センターを中心に、妊娠・出産・育児を切れ目なく支える体制を整えました。子育て支援センターの充実に加え、病児・病後児保育、ファミリーサポートセンターなど、多様な支援も広がりました。

3 地域で育む キャリア教育



お仕事調査隊

小学校の「お仕事調査隊」や中学校の職場体験など、地域と連携したキャリア教育を推進しました。探究的な学習を通して、児童生徒が地域で働く人に学び、自分の将来や生き方を考える機会を育んでいます。

4 世界にふれる 短期留学・英語教育



夏休み海外短期留学

市内の中高生を対象に、夏休み期間を活用した海外短期留学を実施。米国での英語学習や異文化体験に加え、小学生向けには米国大学から講師を招く「ESLキャンプ」も行い、世界へ羽ばたく人材を育てています。

5 挑戦を応援！ スポーツ・文化



教育長へ成果を報告

スポーツ・文化活動県内外派遣補助金を創設し、県外等の大会に出場・参加する児童生徒を支援しました。スポーツや文化活動に励む子どもたちの挑戦を、地域全体で後押しする仕組みが整えられています。

6 学びをあきらめない 経済的支援



楽しい学校生活のために

経済的な理由で進学や学びを断念することがないように、無利子貸与型や返済不要型の奨学金を創設しました。入学準備金貸付、就学援助、子ども医療費助成なども含め、家庭の負担軽減を図っています。

改築した主な学校施設

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ● 玉城小学校(2006年) | ● 大里南小学校(2010年) | ● 知念幼稚園(2014年) | ● 大里中学校(2021年) |
| ● 知念小学校(2006年) | ● 玉城幼稚園(2010年) | ● 佐敷幼稚園(2015年) | ● 大里こども園(2023年) |
| ● 久高小中学校(2009年) | ● 船越小学校(2010年) | ● 大里北小学校(2019年) | ● 馬天小学校(2024年) |

その他の「教育・子育て」に関する取り組み

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ● 市立図書館の整備、電子図書館 開設 | ● 子どもの居場所 開所 |
| ● 親子通園事業所「はっぴ〜」開所 | ● 市内小中学校へ一人一台端末等を整備 |
| ● 知念児童館 開館 | ● 南城市こどものまち宣言 |



南城市の民生委員・児童委員の皆さん

声をかけ、支え合う。

安心して、住み続けられるまちであるために

南城市には、今も地域のつながりが息づいています。一方で、人口増加や暮らし方の変化により、地域の関係性は少しずつ希薄になりつつあります。

南城市では、地域福祉計画の将来像に「一人ひとりを大切に、ともに支え、ともに生きる共生のまち南城市」を掲げ、南城市らしさのひとつである「つながりの力」を生かした地域づくりを進めています。

民生委員・児童委員は、地域の身近な相談役として、日々の声かけや見守りを続ける存在。何気ないゆんたくの時間が、孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域を支えています。



高齢者宅を訪ねた「知名支え合い委員会」の皆さん。2人1組で定期的に地域の高齢者を訪ねると、自然とゆんたくが始まります。見守り活動が、笑顔と安心をつないでいます。

健康・福祉の主な取り組み

1 住み続けるための高齢者福祉



地域型センター

高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターに、「地域型センター」を設置しました。介護や健康、暮らしの不安などにきめ細かく対応し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制を整えています。

2 歩ける百歳をめざして介護予防



自身体操サークル

各地域でのミニデイに加え、いきいき教室、水中運動やトレーニング教室への参加費補助などを実施しています。自身体操サークルの輪も広がり、地域で楽しみながら健康づくりに取り組む人が増えています。

3 地域で理解を深める認知症



介護の目 講演会

認知症初期集中支援チームが、認知症の方やその家族を早期にサポートしています。認知症カフェや講演会を開催し、地域で理解を深めながら、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めています。

4 健診で健康を守る健康づくり



健康啓発劇

特定健診の受診啓発を続け、南城市の受診率は41.4%（令和4年度）で、国や県の平均を上回り、県内市部では1位となりました。生活習慣病の予防や早期発見につなげ、市民の健康づくりを支えています。

5 自分らしく暮らす障がい者支援



「野の花」の作業風景

障がい者基幹相談支援センター、地域活動支援センター「野の花」を設置し、市内に住む障がいのある方やそのご家族などからの相談に応じ、安心して地域生活が送れるよう総合的・継続的に支援を行っています。

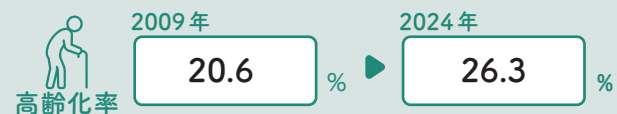
6 自立に向けた生活困窮者支援



相談風景

就職・生活支援パーソナルサポートセンターを設立し、生活や就労で困っている方へ伴走型の支援を行っています。住居確保給付金などの制度も活用しながら、自立に向けた暮らしの立て直しを支えています。

南城市の高齢化率



地域別高齢化率(2024年)

- 大里：22.6%
- 玉城：25.9%
- 佐敷：28.0%
- 知念：36.1%

その他の「健康・福祉」に関する取り組み

- 緊急通報システム
- 手話意思疎通事業
- 食の自立支援サービス事業
- 介護支援ボランティアポイント制度
- 個別避難行動計画
- 外出支援サービス事業
- Nバス運賃支援事業(高齢者、障がい者)

南城の恵みを活かす。

海と大地の力を、南城ブランドへ

南城市には、豊かな自然から生まれる多くの恵みがあります。鮮魚、牛乳や和牛、野菜や果樹など、多様な農畜水産物は、地域の暮らしと産業を支えてきました。

南城市では、かんがい施設や船揚場などの生産基盤を整えるとともに、肥料・飼料・資材などへの補助を行い、生産者の負担軽減と安定した生産を支援してきました。

また、観光との連携により農産物の消費拡大にも取り組んでいます。奥武島いまいゆ市場は水産物の消費拠点としてにぎわい、なんじょう和牛などのブランド化も進むなど、南城の恵みを地域の経済へつなげる動きが広がっています。



子牛の出荷を主としてきた南城市の畜産。コロナ禍で子牛価格が下落する中、2024年に「なんじょう和牛生産組合」を設立し、役目を終えた繁殖牛を再肥育して出荷する取り組みが始まりました。



奥武島いまいゆ市場

産業・観光の主な取り組み

1 南城らしさを商品に 南城セレクション



2025年度最優秀賞の「生もずく」

地域資源や歴史文化にゆかりのある素材を生かした優良な商品を認定する「沖縄南城セレクション」を創設しました。市産牛乳を使ったチーズ・アイスなど、南城市ブランドの発信につながっています。

2 特産品の拠点へ 地域物産館



南城市地域物産館

斎場御嶽駐車場に、市内の特産品を取り扱う南城市地域物産館がオープンしました。観光客が地域の商品に出会う場となり、特産品の販売や開発支援を通して、市内事業者の販路にもなっています。

3 経済効果も拡大 ふるさと納税



返礼品として人気のマンゴー

ふるさと納税の寄付金は、平成20年度の約650万円から、令和6年度には約3億5,900万円へと拡大。まちづくりに活用され、返礼品を通して特産品のPRや事業者の売上向上にもつながっています。

4 地域の物語を伝える 文化財活用



南城市ガイド「アマミキヨ浪漫の会」

各地域で活動していた文化財ガイドが結集し、南城市ガイド「アマミキヨ浪漫の会」が組成されました。斎場御嶽のガイドや地域散策を通して、歴史文化の価値を伝え、観光客の理解と満足度を高めています。

5 人と企業をつなぐ 雇用創出



合同企業説明会

2009年に雇用創出サポートセンターを開設。求人と求職のマッチングをコーディネートしてきました。合同企業説明会も定期的に開催し、市内外の企業と働きたい人をつなぎ、地域の雇用を支えています。

6 新産業を呼び込む 企業誘致



コストコ沖縄南城倉庫店

コストコの進出は、雇用や人の流れに大きなインパクトをもたらしました。また、旧庁舎跡地にソーニー関連企業が入居するなど、公共施設跡地の活用も進み、新たな産業拠点づくりにつながっています。

主な農産・畜産・水産物

- ゴーヤー（2002年県拠点産地認定）
- 薬用作物（2004年県拠点産地認定）
- オクラ（2008年県拠点産地認定）
- マンゴー（2010年県拠点産地認定）
- さやいんげん（2011年県拠点産地認定）
- モズク（2023年県拠点産地認定）
- きゅうり（県内生産高2位）
- 乳牛（県内飼育頭数1位）
- 鶏卵（県内飼育羽数2位） 等

その他の「産業・観光」に関する取り組み

- 優良繁殖牛導入事業
- 優良乳用牛リース支援事業
- インキュベート・創業支援施設開所
- 全国ハーブサミット南城大会
- 農業基盤整備
- 斎場御嶽世界遺産登録20周年記念事業

南城市が先導的都市拠点として位置づける、南部東道路の南城佐敷・玉城ICと南城つきしろICにまたがるエリア。それぞれのICに南城市の交流と産業の拠点となる施設が2027年度以降に誕生します。

まちづくり交流拠点

南城市役所に隣接する形で誕生する待望の施設。図書館を核に、市民同士が共に育み、共に育つ「共育拠点」を目指します。以下の機能で市民の交流を促します。



圖書館・書店

学びと出会いを生み、にぎわいの拠点となる、
図書館と書店を融合したワクワクする機能！



子どもの遊び場

天候にかかわらず、親子が安全に体を動かし、遊ぶことができるエリア。



健康増進機能

健康スタジオでは、運動教室などの健康増進プログラムを提供。



市民活動拠点

サークル活動の場として、また多世代がともに憩う場として、交流の拠点となります。

南城佐敷・玉城ICエリア

南城市役所を中心に公共機能が集まるエリア。Nバスの発着点や公共駐車場を備えた交通の結節点であるとともに、学び・健康・交流・市民活動の拠点として整備が進められています。



NOLL南城 南沖縄市場のイメージ



南沖繩市場

地元の農畜水産物や特産品が集まる市場機能や専門店街、沖縄食材研究所で食と地域の魅力を発信。



ワーカーズハウス

第一次産業従事者を主な対象とした賃貸住宅。第一次産業が「魅力的なライフスタイルの一環」であるという再認識を促します。



レジデンシャルホテル

長期滞在者向けの分譲住宅兼宿泊施設。訪問者が地域住民と自然な形で接点を持てる体験を提供。



交流ラウンジと緑地広場

人が集い、語らい、コミュニティを育むラウンジ
や広場をデザイン。

南城つきしろICエリア

土地区画整理事業が進み、コストコ沖縄
南城倉庫店が開業。広域から人を呼び込
む新たな流れが生まれています。商業・
産業・交流機能が集積する、南城市の成
長を支えるエリアとして期待されていま
す。



まちづくり交流拠点
図書館・書店の
イメージ





南城市が次の20年へ歩むために、どのような人を育み、
外の視点をどうまちづくりに生かしていくのか。
海外短期留学を経験した平田華蓮さんと大城憲幸市長が、
ふるさとと世界をつなぐ未来について語り合いました。

海外への一歩が、未来を変えた

- 平田 私が英語に興味を持ったきっかけは、小学校5年生の時に参加したESLキャンプでした。アメリカから来た先生方と過ごす中で、英語が好きになって、「もっと学びたい」という気持ちが芽生えました。その後、南城市の海外短期留学事業があることを知って、応募しました。
- 大城 ESLキャンプは名護で宿泊するプログラムですね。
- 平田 海外留学となると費用面で両親に負担をかけるのではという心配もありました。でも、南城市から補助があるということで、両親も「頑張ってこい」と背中を押してくれました。
- 大城 南城市の海外短期留学は、単に英語を学ぶだけの事業ではありません。現地の大学寮に泊まり、実際の教室で講義を受ける。若い時期に本物の環境にふれることができるのが、この事業の大きな特徴です。
- 平田 私も、まさにその環境に刺激を受けました。初めて長期間、海外へ行く経験でしたが、不安よりもワクワクの方が大きかったです。海外に行ける、英語を学べる。そのことが本当に楽しみでした。
- 大城 人はどうしても、自分の常識の中で「自分はこれくらいだろう」と枠を決めてしまいがちです。その枠を広げる機会を、子どもたちに届けたいという思いがあります。

語学以上に得られた「挑戦する心」

- 平田 短期留学で特に大きかったのは、アメリカのコミュニティカレッジ(2年制大学)の存在を知ったことです。それが、その後の進路を考える決定打になりました。
- 大城 中学生の時の経験が、高校卒業後の進路につながったわけですね。
- 平田 はい。高校卒業後、アメリカ・ワシントン州のワットコム・コミュニティカレッジに進学しました。2年間学んだ後、

- 琉球大学に3年次編入しました。海外の4年制大学にいきなり進むよりも、挑戦しやすい道があることを知れたのは大きかったです。
- 大城 短期留学が、単なる思い出で終わらず、その後の本格的な学びにつながった。これは本当にうれしいことです。
- 平田 海外で学んだことで、「挑戦することの大切さ」を身をもって知りました。日本では空気を読むことが大事にされる場面もありますが、海外では自分の考えを示さないと、意思がないと受け取られることもあります。手を挙げて発言すること、自分の意見を伝えること。その経験が、今の自分の姿勢にもつながっています。
- 大城 空気を読むことは日本の文化でもありますが、海外ではそれだけでは通用しないこともある。若い時期にそれを肌で知ることは、大きな学びですね。
- 平田 現在は、グローバルな環境の職場で社会人として働いています。アメリカで「話す」だけでなく、「読む」「書く」ことも含めて学んだ経験は、今の仕事にも生きています。

多様な視点が次の20年の力になる

- 大城 海外へ出て、南城市への見方に変化はありましたか。
- 平田 大きく変わりました。アメリカでは、仕事や家庭の事情で州を移りながら暮らしていて、「帰る地元」を持たない人もいます。その時に、自分にはいつでも帰れる場所がある。それは自分のアイデンティティであり、本当にありがたいことなんだと気づきました。
- 大城 外に出たからこそ、ふるさとの存在に気づくことがありますね。
- 平田 はい。私は4歳から琉球舞踊を続けていますが、南城市は地域行事や伝統芸能がとても盛んです。以前は当たり前だと思っていた地域の芸能や文化が、一度海外に出たことで、誇るべきもの、守っていくべきものだと感じる



第6代 南城市長

大城憲幸



海外短期留学経験者

平田華蓮

ひらたかれん：中学3年の時に海外短期留学に参加。佐敷出身。現在は、グローバルな環境の企業で働く社会人1年目。



- ようになりました。
- 大城 南城市のような地域に、なぜ外の世界を見た人材が必要なのか。そこはとても大事なところですよ。外から来た人や、外を見て戻ってきた人は、「南城市はもっと良くできる」「これは磨けば宝になる」と気づくことが多いんです。地域の中にいると見えにくい価値も、外の視点が入ることで見えてくる。
- 平田 外の世界を知ること、ふるさとの見え方も変わりますよね。
- 大城 ずっと南城市に住み続けて、地域を支えてくれている人たちがいます。一方で、外に出て学び、働き、違う価値観にふれて戻ってくる人もいます。さらに、外から南城市に来て、この地域の可能性に気づいてくれる人もいます。そういう多様な視点が混ざり合うことが大切なんです。
- 平田 いろいろな立場の人が関わることで、新しい考え方や機会が生まれるということですね。
- 大城 沖縄の言葉で言えば、まさにチャンプルーです。地元で暮らし続けてきた人の知恵、外を見てきた人の視点、外から来た人の発想。それぞれが混ざり合うことで、南城市のまちづくりはもっと豊かになります。だからこそ、子どもたちには外の世界を見るチャンスを持ってほしい。そして、どこで暮らし続けていても、南城市とつながり続けてほしいと思っています。
- 平田 外へ出ることは、ふるさとはから離れることではなく、ふるさとをもう一度見つめることにもつながるんだと思います。
- 大城 そうです。南城市から世界へ出ていく。そして世界で得た経験や視点を、また南城市へつなげていく。その循環が、次の20年の南城市をつくる力になると思います。

次の世代へ、挑戦の道筋をつなぐ

- 平田 私は市のサポートや家族の理解があって、この道を歩むことができました。だからこそ、経済的な理由で諦めることなく、短期留学の“その先”にある選択肢を選べる環境が、さらに整ってほしいと思います。
- 大城 親の経済的な状況によって、子どもたちの選択肢が狭まってしまうことは、できる限りなくしていかなければ

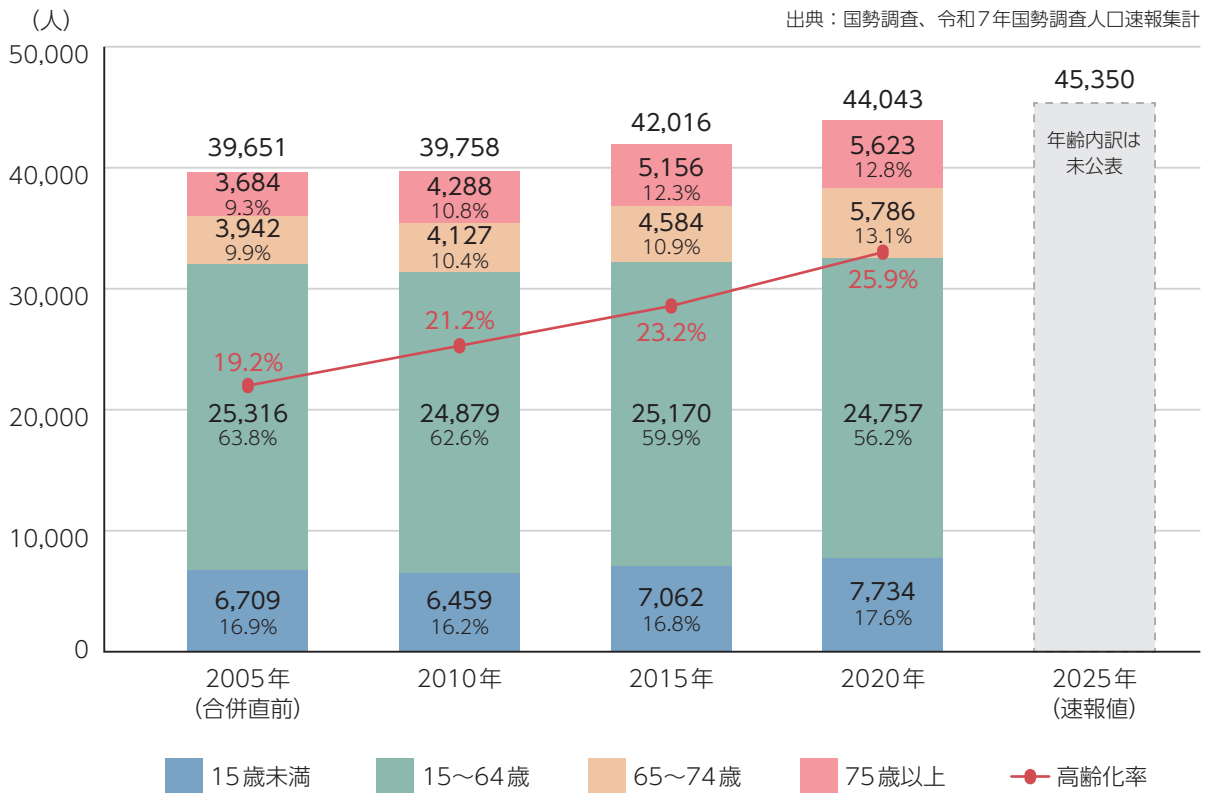
- なりません。もちろん、海外留学にかかる費用や物価高など、事業を続けていくうえでの課題はあります。それでも、市民の皆さんの理解をいただきながら、続けていきたい事業です。
- 平田 海外に出ることで初めて知る世界がたくさんあります。ぜひ自分の足で現地に行き、自分の目で世界を見てほしいです。
- 大城 地元に残って頑張る道もあれば、那覇へ、県外へ、海外へ羽ばたく道もあります。いろいろな生き方があっていい。ただ、大人の責任として、子どもたちが「世界を見たい」と思った時に、そのチャンスをつかめる仕組みを準備しておきたいのです。
- 平田 身近に同じような道を歩んだ先輩がいると、若い世代も挑戦しやすくなると思います。私の経験も、これから挑戦する子どもたちの後押しになればうれしいです。
- 大城 先輩の存在は大きいですね。私自身も、地域から琉球大学へ進学した先輩の姿を見て刺激を受けた経験があります。平田さんのような経験者が、「留学前は不安もあるけれど、行ってみたらこんな世界が広がっているよ」と伝えてくれるだけでも、子どもたちにとって大きな道しるべになります。

未来へつなぎたい言葉

- 大城 最後に、南城市の未来に向けて大切にしたい言葉を挙げるとしたら、平田さんは何を選びますか。
- 平田 私は「つながり」です。地域コミュニティのつながりはもちろん、県外や海外とのつながりも大切です。人と人がつながることで、新しい機会が生まれます。多様な価値観や考え方が南城市の中で混ざり合うことで、さらに素晴らしい地域になっていくと思います。
- 大城 私は「次の世代への責任」です。政治に携わって20年以上になりますが、常にその思いを根っこに持って行動してきました。目の前にはさまざまな課題がありますが、自治体の長として、次の世代が誇りを持てる、そして広い世界へ羽ばたいた人材が「帰ってきたい」と思える南城市を残していくこと。それが私たちの責任だと思っています。

1 人口の推移と年齢構成の変化

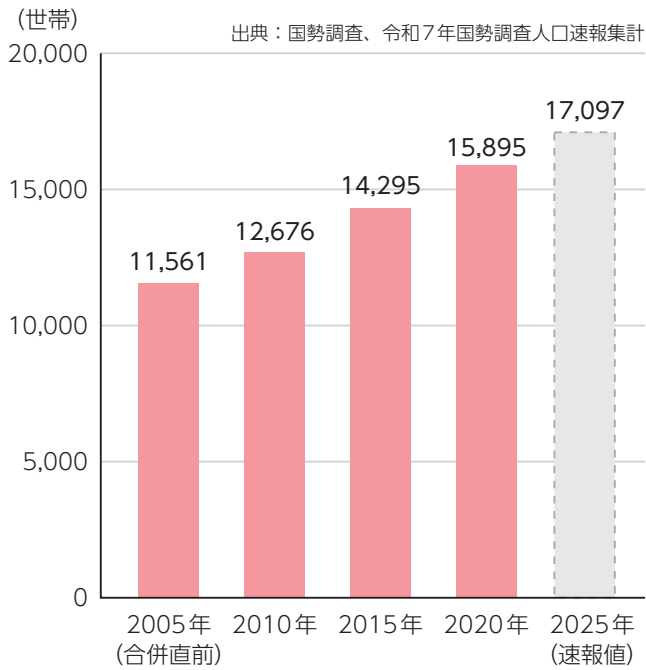
人口は増加、同時に高齢化も進行



※年齢区分別人口は国籍総数。年齢不詳を含まないため、内訳の合計は総人口と一致しない年があります。
※端数処理(四捨五入)の関係上、各年の割合の合計が100%にならない場合があります。

2 世帯数の推移

20年で世帯数は約1.5倍に



3 地域別人口の変化

4地区で異なる人口の動き



4 数字で見る南城市の変化

比較可能な年次で主な指標を比較

人口・暮らし



出典：1世帯あたり人数は国勢調査および令和7年国勢調査人口速報集計、その他は第3期創生戦略掲載値による

財政



出典：沖縄県「普通会計決算状況」

産業



出典：事業所数および従業員数は経済センサス-活動調査、農林業経営体数は農林業センサス(2005年は旧4町村の合計)

5 歴代役職者

南城市の歩みを担った役職者

市長

就任順	氏名	任期
職務執行者	津波 元徳	2006.01.01～2006.02.11
初代	古謝 景春	2006.02.12～2010.02.11
2代	古謝 景春	2010.02.12～2014.02.11
3代	古謝 景春	2014.02.12～2018.02.11
4代	瑞慶覧 長敏	2018.02.12～2022.02.11
5代	古謝 景春	2022.02.12～2025.11.17
6代	大城 憲幸	2025.12.21～在任中

副市長

就任順	氏名	任期
初代	與那嶺 紘也	2006.04.01～2010.03.31
2代	與那嶺 紘也	2010.04.01～2014.03.31
3代	座波 一	2014.04.01～2015.12.31
4代	具志堅 兼栄	2016.02.24～2018.02.10
5代	新屋 勉	2018.10.04～2022.02.11
6代	當眞 隆夫	2022.04.01～2025.12.22
7代	大城 竜男	2026.01.21～在任中

議長

就任順	氏名	任期
初代	金城 清	2006.01.01～2006.09.27
2代	川平 善範	2006.09.28～2010.09.27
3代	照喜名 智	2010.09.28～2014.09.27
4代	大城 悟	2014.09.28～2018.09.27
5代	国吉 昌実	2018.09.28～2022.09.27
6代	中村 直哉	2022.09.28～2025.10.06
7代	安谷屋 正	2025.11.09～在任中

教育長

就任順	氏名	任期
職務執行者	銘苅 春俊	2006.01.01～2006.03.30
初代	高嶺 朝勇	2006.03.31～2014.03.30
2代	山城 馨	2014.03.31～2018.03.30
3代	上原 廣子	2018.09.01～2022.03.31
4代	具志堅 兼栄	2022.04.01～在任中

副議長

就任順	氏名	任期
初代	川平 善範	2006.01.01～2006.09.27
2代	大城 幸雄	2006.09.28～2010.09.27
3代	大城 悟	2010.09.28～2014.09.27
4代	照喜名 智	2014.09.28～2018.09.27
5代	玉城 健	2018.09.28～2022.09.27
6代	安谷屋 正	2022.09.28～2025.10.06
7代	新里 嘉	2025.11.09～在任中

6 受賞・認定

市の取り組みが評価された主な受賞・認定

- 沖縄タイムス賞 自治賞（2010年）
- 第63回 保健文化賞（2011年）
- 地域公共交通優良団体大臣表彰（2021年）
- 「白い砂のアクアトープ」アニメ聖地88選定（2022年）
- 「なんじょうデジタルアーカイブ」デジタルアーカイブジャパン・アワード（2022年）

7 姉妹都市盟約

旧町村から続く姉妹都市交流

- 宮崎県高千穂町
旧佐敷町と1995年に締結。南城市と2009年に再締結。
- 三重県玉城町
旧玉城村と1993年に締結。南城市と2024年に再締結。

南城市 20 年のあゆみ

発行日 2026年8月9日
発 行 南城市

編 集 南城市役所 総務部 秘書防災課
〒901-1495 沖縄県南城市佐敷字新里1870番地
TEL 098-917-0256
FAX 098-917-5424